

▼ めちゃくちゃお世話になっている
フロントの方（撮影：かんしゃ代表）



▼ 行き過ぎず足りないこともないアメニティ



▲ 古き良き時代を感じる ▲ ラグジュアリー感と開放感を兼ね備えたロビー ▲ この階段を上ると「土佐座事件」の現場です
漫画と座敷童

土 佐の高知の はりまや橋で 坊さん かんざし
買うを見た よさこい よさこい

一番上の写真。坊主頭で眼鏡と笑顔が良く似合う男性。
みなさんは、ご存知ですか？

そう。彼こそ、夢源風人が2005年から長きにわたって、
お世話になっている「ロスイン 高知」 フロントの藤戸様。
毎年8月に、優しい笑顔で私たちを「おかえりなさい！」
と出迎えてくれます。

今回の見聞録は、そんな藤戸さんのストーリー。もちろ
んフィクションです。

「もしも藤戸が語ったら」vol.1

(著) たいが

今年も彼らが帰ってくる。彼らの夏の訪れと同時に私
にも夏が訪れる。出会って14年目の夏が始まる。

8月9日の16時頃。一台の観光バスがホテルに到着。
ロビーに向かってくる中には、明日から始まる夢の時間
にワクワクしている顔、少し不安げな顔、「ただいま」と
変わらない笑顔、よく分からない水玉上下のファッショ
ンでロビーに居座る偉そうな顔、それぞれ。みんな、今
年もおかえりなさい。

今年の夏は彼らに何をプレゼントしてくれるのだろうか
かと私のココロが弾む。

8月10日の8時。食堂横の通路に大量に積み重ねられ
た段ボールを運び出す人たちとすれ違う。真夏に1日中
踊るのだ。水分はいくらあっても足りない。数年前は前
日のお昼から、スポーツ飲料を水で希釈していたと思
い出し、懐かしさを感じた。

そして、その横では白い粉の入った透明の袋(注)を数
えている。声を掛けてはいけないような気がした。

ロビーに目を向けると、スタッフらしきメンバーたち
が会議をしている。自己紹介や自分の役割を話したり、
運営からのお願いがあったり。その輪の中に、いつもと
変わらない顔を見つけると私までも安心する。初めて参
加するメンバー、チームの踊り子さんにとって心強くだ
ろう。彼らにとって私も“変わらない顔”でありたい。

10時頃、踊り子たちが衣装を着てロビーに降りてくる。
踊りのことは分からないが、綺麗な衣装を身に纏った姿
はいつ見ても素敵だ。土佐の夏空は、きっとあなた達を
歓迎している、思いっきり楽しんで来てほしい。そして
夜には全員笑顔で帰ってきてほしいとココロから願う。

12時。祭りが始まる。街中がよさこい節と鳴子の音で
溢れ、一年で一番の熱気がこの街を包む。私は冷房の効
いたホテルで、彼らの帰りを待っている。

(続?)

(注) 合法です。ただの塩です。